

2020年度 活動計画（2020年4月1日～2021年3月31日）

■2020年度の方針

2020年度は第6期中期計画（2019年度～2021年度）の2年目になります。

メサ・グランデは2012年、食と農を通じた地域交流の拠点からスタートし、開設当初から障がいのある人のインターンの受け入れを行い、2016年には障がいのある人も共に安心して過ごし働ける場所、地域活動支援センターとして、カフェの営業もその活動の一環として4年間続けてきました。その中で、障がいのある利用者さんたちへの支援のノウハウが徐々に蓄積されてきました。食で社会とつながり、仕事につなげる現在のスタイルは、基本的に維持していく方針ですが、持続的な事業に発展させるため今年度、大きな決断を行います。制度面では「地域活動支援センター」という市の補助金事業から、国の個別給付事業である「就労継続支援B型事業所」への移行を検討します。具体的なシミュレーションを行い、現在の職員の支援力強化を目指します。

遊友ひろばは、登戸区画整理事業による立ち退きまで残り2年となる局面で、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、年度前半は人が集まる事業の実施が厳しい状況です。ちょうど賃貸契約更新の時期でもあります。国の持続化給付金や神奈川県新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金、会員・利用者の皆さまのご協力も仰ぎつつ、安全対策をしっかりと行い早期に事業を再開し、区画整理事業による立ち退きまでひろばの継続を維持する方針です。今年度は新たに「川崎市住民主体による要支援者等支援事業」を受託し、健康麻雀事業を、要支援の方などにも参加していただき、外出や人との交流の機会の創出に寄与していきます。「川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業補助金」による寺子屋事業も継続します。最長で2年後、ただし社会状況により早期に閉鎖せざるを得ない場合にも備えて、ぐらす・かわさきの原点である多摩区の拠点をどうしていくのか検討します。

また来年の20周年に向け、ぐらす・かわさきのこれまでと今後について検討を重ねます。

■2020年度事業内容

（1）市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条（1））

事業規模／0円

（担当理事：江田）

①さまざまなグループへの参加と応援

これまで同様、市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援していきます。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「公益財団法人かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（前田・田代）
- ・「三田まちもりカフェ」（町田）
- ・「まなてら運営委員会」（「柘中寺子屋運営委員会」から名称変更）（池上）

他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていきます。

②他団体に団体会員としての参加

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行います。

「NPO 法人フリースペースたまりば」、「NPO 法人ワーカーズコレクティブ協会」、「NPO 法人アクションポート横浜」、「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」、「NPO 法人たすけあい多摩」、「川崎商工会議所」、「登戸東通商店会」、「新城南口商店会」「まなてら運営委員会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力します。

「公益財団法人かわさき市民しきん」

○また、次の団体に協力団体として参加します。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

(2) 障がい者を支援する事業の企画・実施（定款第5条(4)）

事業規模：19,370,000 円（補助金：12,670,000 円・売上：5,500,000 円・寄付：200,000 円、その他：1,000,000 円）

○地域活動支援センター メサ・グランデ事業

（担当理事：小林・伊丹、スタッフ：前田瑞穂・前田知花・和出・伊藤・大森）

地域活動支援センターは、D型の運営を維持しながら成果のある支援を行い、加算を受けられる環境づくりに努め、同時に今後の展開を検討していきます。利用者の個別性をくみ取ったうえでの個別支援計画が個々に合わせた支援に結びつき始めたので、今後は職員の支援力を強化するための体制を整えていきます。また、カフェの業務を協働している利用者や、アルバイトや就職を希望している利用者に対しては、スキルトレーニングや 他施設との連携をはかりながらサポートをしていきます。

地域イベントや祭りなどへの参加は、利用者にとってはコミュニケーションの機会提供と社会性の醸成の場となり、メサ・グランデにとっては知名度の向上と街の活性化への貢献につながるため、今後も工夫を凝らしながら積極的に参加していきます。

カフェの運営については、年齢を問わず、障がいのあるなしに関わらず、さまざまなお客様が集える場としての役割を強化していきます。ホームページや SNS での情報発信や、料理や作業工程の改善を含めて多面的に構想を練り、スピーディに改善に取り組みます。2021 年度より HACCP の考え方を取り入れた衛生管理が義務付けられるので、今年度は知識の共有とマニュアル作りを行い、チェック体制を確立していきます。また、売上を増やすための安定的な収入源として、弁当販売に注力して販路を広げていこうと考えています。

「ビーバーリンク@武蔵新城」や「めさみーる+」などは継続し、引き続き食支援やフードロス問題に取り組みます。貸しスペース事業は、メサ・グランデの土日祝を活用し、利用実績のある方や定期利用できる団体に限り、実施します。

NPO 法人アクションポート横浜がコーディネートする大学生インターンシップや、企業・市役所の職場体験研修、ボランティアなどを積極的に受け入れます。将来の地域活動の担い手の育成に寄与するとともに、地域活動支援センターが閉鎖的な空間になることを避け、風通しの良い環境を作り、健全で人道的な運営になるように務めます。

(3) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(5)）

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業／上記（3）の通り

②遊友ひろば事業

事業規模：2,073,400 円（補助金：150,000 円・売上：523,400 円・寄付：200,000 円、その他：1,200,000 円）

（担当理事：池上・江田・町田、運営委員：池上・江田・大澤・鈴木(俊)・瀬川・町田）

幅広い世代の住民の交流を促進し、コミュニティを活性化するため、場の運営に関心のある有志ボランティアが、以前から続いている取組をできる限り継続します。

どの事業も、当面は新型コロナウイルス感染症拡大防止による自粛の影響が大きいと予想されますが、これまで支えてくださった方々との関係を大切に、感染拡大リスクをできる限り抑えながら、利用者およびボランティアスタッフが無理なくできる範囲で利用の回復と業務分担を図ります。

また、現在の賃貸物件を退去せざるを得ない場合の下準備として、備品の譲渡先検討や不要品の処分などを進めるとともに、別拠点の活用や、固定的な場を持たずに「ひろばとしての機能」を残す可能性など、今後の多摩区での活動のあり方について検討し、これまでの成果をなるべく次につなげられるように働きかけていきます。

○地域住民等への活動場所の提供（貸スペース）

（担当ボランティア：池上・秋山 他）

○健康麻雀

（担当ボランティア：瀬川・町田・江田 他）

今年度新たに「川崎市住民主体による要支援者等支援事業業務委託」が決まったことを受け、これまで参加のハードルが高かった要支援の方などをこれまで以上に積極的に受け入れるとともに、新たなスタッフの育成を図ります。

○土井さんのオーガニック料理教室

（担当ボランティア：町田・宮下）

飲食を伴うため、特に新型コロナウイルス感染症拡大防止のリスクに配慮し、安全性が確保されれば再開します。

○放課後ひろば（食事付き寺子屋）

（担当ボランティア：町田・川口・高崎・徳田・江田・多摩区食生活改善推進員連絡協議会（ヘルスマイト））

「川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業補助金」も引き続き活用し、一斉休校の影響で学習に不安を抱える生徒や保護者のニーズに応えるとともに、生徒同士の交流や食事を通じたヘルスマイトさんはじめ地域の方との交流も図り、居場所としての役割を大切にしていきます。

（4）以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

事業規模：50,000 円

（担当理事：田代・葉袋、担当スタッフ：宮田）

①広報

ぐらすレターはこれまで同様6月・9月・12月・3月の年4回発行します。カラープリントで生き活きとした紙面構成で活動の様様をしっかりと会員の皆さんに伝えます。顧客や地域へのアピールとして、ブログ、フェイスブックページ、ツイッター、インスタグラムなど SNS ツールを活用し、ニュース性のある情報をこまめに発信し、固定客を掴むよう努めます。ホームページにはあまり時間をかけることができない状況から、新規情報の積極的発信というよりも、更新されずに古いままの情報があれば、修正することで対処していきます。

②20周年に向けた資料の取りまとめ

日本女子大学薬袋ゼミの協力も得ながら、20周年記念誌を2021年5月の総会で配布できるよう、2020年度の前半でコンテンツを決定し、後半で編集を進め、2021年1月以降に校正できるように進めていきます。

③講座開催・講師派遣

職員や役員に講師等の依頼があれば可能な限り協力します。

④行政などに関わる委員会への参加

国分寺市協働事業審査会（田代）

かわさき市民公益活動助成金審査委員会（池上）